

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577700168		
法人名	医療法人 扶老会		
事業所名	グループホームふなき		
所在地	山口県宇部市大字船木833番地		
自己評価作成日	令和3年9月20日	評価結果市町受理日	令和4年3月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
調査実施日	令和3年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

扶老会ケアヒルズは敷地内にはグループホーム以外にも病院、老健、特養、地域包括支援センター、高齢者住宅、レストラン等、病状、身体機能に応じた生活が出来る施設が完備されています。ホームは家庭的でかつバリアフリーデザインの作りです。また、ボランティアやホーム内行事等催しを行う際においても十分なスペースがあります。中庭では野菜や花を楽しむことも出来る憩いのスペースとなっています。自然豊かな場所でもある為、日常的に遊歩道や敷地内を散歩することができるのも楽しみの一つです。外出支援は新型コロナの影響で減少していますが、出来る範囲で行っております。隣接する老健・病院から常日頃からサポートを受けています。管理栄養士や理学療法士のアドバイスや勉強会もあり、また合同の委員会にも参加しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家族や地域の人との直接的な交流が難しい中、オンラインを活用されるなど、時代に即した関係継続の支援に努めておられます。職員の意見も取り入れタブレットやPCを積極的に導入され、家族の面会や認知症カフェにZOOMという新たな方法を取り入れ、馴染みの人たちとの交流を図られたり、研修等にもLINEやYouTubeの活用を図っておられます。機械が苦手な家族には手紙や電話の数を増やしていく工夫もしておられます。全家族に手紙を送っていただいて、事業所の敬老会で利用者自らが読まれたり、読んで差し上げて、利用者の笑顔につなげておられます。職員の飼犬を事業所に連れてきての利用者とのふれあいや、野菜づくりと収穫、季節感にあふれる行事や食事など、困難な状況の中、職員が工夫され助け合われて、利用者の楽しみや喜びづくりの支援に取り組んでおられます。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自の4つの理念を掲げ、常にその理念を共有している。壁に掲示しており、会議の時など原点回帰として実践にも繋げている。	地域密着型サービスの意義をふまえた4つの理念を職員が話し合っつくり、事業所内に掲示している。2か月に1回のユニット合同の全体会議で、理念を念頭にカンファレンスを行い、接遇の改善やスピーチロックの防止について確認し、ケアに反映させるように、意識的に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で対面交流など難しい状況にあるが外出や来訪など可能な範囲で続けており、コロナ終息後は積極的に交流参加をしていきたい。	利用者は、拠点施設を利用する知人や職員、敷地内のパン工房での買物の際に出会う人と挨拶を交わしている。隣接する高齢者賃貸住宅の住民や運営推進会議の参加者、家族等から、お菓子や花、マコモなどの差し入れを受けている。職員はRUN伴(認知症啓発駅伝)に参加している。地域包括支援センターと開催する認知症カフェに、利用者がリモートで参加して、地域の人と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献のひとつとして認知症の方への理解や介護、支援方法を運営会議や認知症カフェやラン伴などを通じて発信している。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価制度導入当初より、現在まで実施する意義は啓発やマニュアル等で運営者・管理者をはじめ理解しており職員全員にて自己評価に取り組んでいる。また年に1度の振り返りとして改善に活かされている。	管理者が職員に評価の意義について説明し、ユニット毎に評価のための書類を置いて、職員に前回と違うところを記入してもらい、管理者と計画作成担当者がまとめている。評価の過程で1年を振り返り、全体会議でケアの目標(口腔ケア、食事形態、排泄ケアの仕方、便秘対策、接遇の向上、身体拘束をしないケア、その人らしい暮らし 食事の楽しみ方 権利擁護利用など)を設定して、重点的に取り組むなど、具体的な改善に活かしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議(年間6回)を通じての多方面からの評価・意見などは日々のサービスの向上の為に、またはホームへのサポート要請などでも活かされている。	コロナ禍のため、会議は年6回、文書で開催し、利用者の状況や活動報告、ヒアリング・事故、コロナ禍における対応、行事予定、研修などの報告をし、メンバーの意見に対する対応の報告を行っている。文書や電話で介護事例の相談をして検討したり、新型コロナウイルス感染症対策の相談をして、リモートやメールの利用、オンライン(YouTubeやLINE)を活用して運営について意見を得るなど、意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各方面の担当者の方とは訪問・電話・メール・郵送・FAX・SNSなど通じて連絡を取り合っている。ホームの現状を報告し、ご指導もいただきながら協力関係を築いている。	市担当者とは、運営推進会議での情報交換他、直接出向いて情報交換をしたり、電話やメール、FAX、SNS、郵送等で相談して助言を受けて、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、同一法人であり、電話や直接出向いて事業の相談や情報交換をしている他、連携して「認知症カフェ」を開催している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な委員会、勉強会で身体拘束について学び、正しく理解している。緊急時を除いて施錠しない、玄関の施錠は防犯上の観点にとどめ実施している。	職員は法人の身体拘束抑制委員会(月1回)や接遇委員会に参加し、年1回実施している身体拘束研修会を全職員が受講して、身体拘束とその弊害について理解している。玄関は施錠せず、外出したい利用者があれば、職員と一緒に売店や散歩に出かけて気分転換をしている。スピーチロックや不適切な対応があれば、管理者が全体会議で指導したり、ケアプランで具体的な対応を示して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や勉強会、研修に参加し意見交換も行いながら職員間での情報交換を通じて未然に防ぐように努めている。乱暴な言葉や声のトーンにも注意を払っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内での定期的な勉強会や行政機関からの指導や研修など通じて学ぶ機会を持つようにしている。現在権利擁護を利用中の入居者も居られる為、身近に感じ、また継続して支援できるように全員が必要性を理解している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、または改定時等の際は基本的に対面して丁寧に文書と照らし合わせて理解の進行度も確認しながらすすめている。また電話においても同様に十分な説明をして不安や疑問点が解消するまで説明を行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や気付きが発生した場合にはマニュアルに即して迅速に対応している。意見箱も設置している。運営会議や面会時、お電話や第三者へ直接伝えるなど意見の反映を幅広く設け、サービスの質の向上に少しでも役立たせている。	契約時に、相談や苦情の受付体制や処理手続き、第三者委員等について、家族に説明をしている。面会時や運営推進会議参加時、電話等で家族からの意見や要望を聞いている。意見箱を玄関に設置している。毎月の事業所便りや、利用者を担当している職員が、利用者の日々の暮らしの様子を写真入りで家族に報告して、意見や要望が出やすいように工夫をしている。家族からのケアに対する要望にはその都度対応し、移設の時期の調整など家族の要望に応えている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	概ね2か月に1度の全体会議を通じて職員の意見の吸収を行っている。またそれ以外も常時、提案・相談を受け入れる環境があり、メールなど電子機器を利用するなど時代に即した受け入れも可能である。	2ヶ月に1回開催する全体会議やメールなどで、職員からの提案や意見を聞いている他、日常的に事務長が来訪して職員から意見を聞いている。職員からの意見や提案で、新型コロナウイルス感染症対策に配慮した備品の充実、Wi-Fi環境の整備、ZOOMやタブレット管理のためのパソコン購入、トイレのスイッチ交換、風呂の戸の修繕を行うなど、意見を運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当有り、処遇改善手当も取得、また時間外労働は極力少なくし、時間外労働時には手当も支給している。有給も取りやすく就業規則や給与水準の変更時にはその都度説明がある等、働く環境の整備をしている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修は定期的に行い、ホーム外研修は各々に適した研修に行けるよう支援している。ホームの掲示板に研修案内を貼り興味関心がある職員も参加できるように支援している。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。受講後は、復命書を提出し、全体会議で報告し、資料や復命書はいつでも見られるように閲覧している。今年は介護支援専門員更新研修と実践者研修、防火管理者研修、老人福祉施設基礎コースに参加している。拠点施設の5委員会(接遇委員会、口腔ケア委員会、感染症委員会、褥瘡委員会、身体拘束抑制委員会)が企画する法人研修に参加し、受講者は復伝している。内部研修は年間計画を立て、年6回、管理者や職員を講師として、認知症の方への対応・マナー・虐待、介護現場緊急時対応、利用者に適したリハビリ、摂食、嚥下、感染症の特徴と予防法、レクリエーションの仕方、緊急時連絡方法について実施している。新人職員は、管理者や先輩職員から指導を受けて、日々の業務の中で働きながら学んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や見学の際の交流を通じて自分たちのサービスを省みて結果的に向上に繋がっている。ズームやメールなども活用してネットワーク作りも構築している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の不安解消の為にホームに必ず事前に見学に来ていただき、はじめの要望をしっかり受け入れながらスムーズにかつ一番の困っているところの解消に繋げ質疑応答もゆっくりと沢山時間かけけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の訪問や電話連絡などを通じて、介護支援専門員等からの情報交換を通じて、信頼関係と安心感をご家族・ご本人ともに抱いて頂けるようにしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応時、必要としている支援や必要な支援を見極め、本サービスに繋げるだけでなく、多方面からの支援内容を検討・相談し本人とご家族にとってベストな支援を連携し探すことに努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様と職員の関係を理解しつつコミュニケーションを取り、意見を聞いたり何でも相談をして頂けるような関係を築けるように努めています。お手伝いして頂いたり一緒に作ったり共に支えて過ごせるようにしています。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様に何かがあればご家族に報告、相談しサポートを依頼し、良いケアが出来るように努めている。ご本人の訴えや面会が滞っている場合はご連絡し面会等を奨めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナの影響により、人とのふれあいやイベント等の中止によりなかなか馴染みの人との関わりが難しくなっている。オンラインや電話や要予約の面会で出来るだけの支援に努めている。	家族の面会（ガラス越しの事前予約制、電話での会話）や親戚、友人、近所の人々の来訪がある他、手紙や電話、年賀状での交流を支援している。敬老会で家族に手紙を依頼したり、ZOOMでのオンライン面会や、リモート開催の認知症カフェでの顔見知りの人との交流など、馴染みの人との関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の日常生活の観察から性格等把握し、それぞれが支え合いの気持ちを持てるように交流支援を行っている。一人の時間が好きな方には一人ゆっくりと過ごしていただいたりしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了と同時に関係が終了ではなく、介護相談などもお受けすることもある。行事などの参加をお願いしたり、ボランティア参加などでも継続した関係性に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成上、それぞれの思いや好きなこと希望、傾向など、今まで歩まれてきた生活歴等を加味しながら画一的な把握にならないようにしている。	入居時に家族とゆっくり話し合い、本人の出来る事、出来ない事について、不安がないように配慮して聞いている。家族や本人から聞いた基本情報(生活環境、趣味、特技、嗜好、やりたい事等)を活用している他、担当者会議で個別の情報収集に努めている。日々の関わりの中での利用者の言葉や表情、反応、職員の対応を「個別記録」に記録して、「ケアプランモニタリング表」にまとめて、思いや意向の把握に取り組んでいる。把握が困難な場合は、家族から聞いて職員で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に今までの生活歴や環境をご本人やご家族にお聞きし個々の暮らしを把握している。またモニタリングを行うことで細やかな生活経過の把握にも努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活やその他の活動について、状態変化を観察し記録に残している。心身機能を保てるよう必要時カンファレンスを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する上でご家族との話し合いを大切にしており、本人も含めてホームでより質の良い生活を送っていただく為の介護計画を作成している。担当者、専門職、などの意見を総合的に反映している。	利用者を担当している職員や管理者、計画作成者担当を中心に、2か月に1回の全体会議で、本人の思いや家族の意向、かかりつけ医や看護職員、栄養士等の意見を参考にし、話し合い、介護計画を作成している。3か月ごとに利用者を担当している職員がモニタリングし、1年毎に介護計画の見直しをしている。利用者の状態に変化があれば、その都度検討をして見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は日常生活や医療に関することで分けて記録し、また#記録を用いて記録することで日々の記録からも情報を共有出来かつケアプランの見直しが行いやすい記録を残すようにしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度発生するご家族・ご本人からのニーズに対応するために敷地内の多機能、多様な施設サービスがある為、連携を取り活かしつつ出来る限りホームで柔軟な支援を提供するように取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その人のその人らしい地域資源をできるだけ支援に活かすようにしている。実際に地域に出向くまたは認知症カフェ等に参加して地域の一員として豊かな生活を送れるようにサポートしている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	コロナウィルス感染症予防対策もあり、受診についてはスタッフが付き添い受診をしている。受診後は結果や予後などについて家人へ電話報告している。	本人や家族の同意を得て、協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回から3回の往診がある。歯科は必要に応じて往診がある。他科の受診は、コロナ禍のため他科も事業所が受診支援している。受診結果は、家族に面会時や電話で報告している。夜間や緊急時には、協力医療機関の当直医が対応している。看護職員が日々の健康観察を行い、主治医と連携をして、適切な医療を受けられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の生活の中で変化があったことに対し、症状や変化の程度などから必要な援助やその方法・対策など提案・助言している。必要時、受診や医師・師長へ相談し指示を受けている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当ケアマネジャーと連携を取りながら、入院先のSWなどを通じて状態の把握に努めまた関係づくりも図っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家人へ状態を報告し、当所での対応が困難な場合、主治医 了承のもと他施設や病院などへの転所、転院をご説明して意向を聞いている。	契約時に家族に事業所でできる対応について説明をし、同意を得ている。実際に重症化した場合には、早い段階から、その都度、家族や医師、看護師等と話し合い、本人や家族の希望に添って、医療機関や他施設への移設も含めて方針を決め、共有してチームで支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	転倒や誤薬など事故発生した場合、DR、看護師へ報告し、インシデント、アクシデントレポートを作成し、要因を分析し、対策を講じている。職員全員で情報を共有しており、定期的な勉強会などで実践力を日々磨いている。	事例が生じた場合は、その場にいた職員がインシデント、アクシデントレポートに発生状況や対応、要因、対応策を一目でわかるように図示、記録し、職員に回覧している。法人の事故防止委員会に報告して助言や指導を受け、全体会議で再度話し合い、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。内部研修で、介護現場緊急対応(転倒、脱水、通報の仕方、骨折、嘔吐、心停止、誤薬、誤嚥)や新型コロナウイルス感染予防等について学び、日々の勉強会で情報共有をしているが、すべての職員がすべての応急手当や初期手当の場面に対応できるとはいえない。	・全ての職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的訓練の充実
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策として定期的に訓練を実施している。(昼夜を想定した訓練)災害ラジオ1台も常備している。訓練は近隣との協力体制も築き、常勤・非常勤職員関わらず参加をしている。	年2回、消防署の協力を得て、昼夜の火災を想定した消火、通報、避難誘導通報訓練と、法人他施設と合同での消防訓練を、利用者も参加して実施している。地震、風水害を想定した避難経路の確認をしている。非常用食品は法人で備蓄し、法人拠点施設との連携や協力体制を整えている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライベートに関わることは自室で行い、他者の目に触れないように配慮している。一人ひとりの人格や自尊心に応じた対応を原則笑顔にて行っている。	マニュアルがあり、職員は全体会議で、管理者や計画作成担当者を中心に、理念の一つである「個人の人格を尊重します」ということについて話し合い、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉づかいや対応に取り組んでいる。個人記録等の取り扱いに留意し、守秘義務を遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に個々が気軽に発言したり、気持ちが図れる様に環境雰囲気作りに努めている。また自己決定できるように支援している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の生活のペースを考慮し意向や希望を聞きそれぞれの利用者様にあった、自分らしく楽しく生活できるように支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服はなるべく自己決定できるようにサポートし、汚れやほつれ等は適切に対処して清潔感を保てるように努めている。訪問理美容では本人の希望に沿うように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の食べたい物を献立に取り入れたり、季節に合わせたイベント食、お誕生日には必ずその方の好きなメニューを聞いて取り入れている。テーブル拭き、消毒、後片付け等を無理のない様にお手伝いして頂いている。	朝食と夕食は法人からの配食を利用し、昼食は管理栄養士の助言を受けて、利用者の好みや季節感のある献立を立て、利用者と一緒に食事づくりをしている。利用者が食べやすいように形状の工夫をしたり食品交換をしている。利用者は、皮むき、混ぜる、ほぐす、味見、盛付、配膳、下膳、台拭き、食器洗い、食事のあいさつなどできる事を職員と一緒にしている。感染予防対策を講じ、利用者と職員と同じテーブルを囲んで食事している。好きなメニューを選べる誕生日食(寿司など)、エントランスでのお茶会、季節の行事食(おせち、恵方巻き、ひな祭りのひなあられやぜんざい、節句の寿司、栗ごはん、サツマイモごはん、ソーメン、祝日の赤飯)、ふなきカフェ(カステラ、アイス、飲み物など)、手作り弁当とデザート、花火大会でのアイスクリーム、おやつづくり(おはぎ、クリスマスのケーキ、蒸しパン、ケーキ、パフェ、スイートポテト、フルーチェ、クレープ)、敷地内売店でのおやつやパンの購入、家族からの差入れ(新米、野菜、マコモだけ、菓子)を使った1品料理(マコモだけのきんぴら、七草がゆ)など、食事を楽しむことができるよう支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に応じて、栄養士に相談し形態を変えるなどしながら栄養、水分量と共に確保している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施すると共に週1回の衛生用品の消毒と定期的な交換を行っている。また問題が生じた場合は協力歯科医院と連携して支援を行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、紙パンツから布パンツに変更する等自立支援に繋げている。なるべくトイレで排泄出来、パッド内の汚染を減らす様支援している。	排泄チェック表を活用して、利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとりの状態に合わせた言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌や食物繊維の多い食べ物をメニューに取り入れている。適時、水分補給を促し、適度な運動を行い便秘予防を行っている。排便困難時には主治医指示の下内服や座薬にて対応している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は定めているがのご利用者様の希望に合わせて楽しく、ゆっくり入浴できる様支援している。体調や状態に合わせて入浴時間の調整やシャワー浴の対応等行っている。入浴剤を入れてリラックス効果も図っている。	入浴は毎日、13時頃から15時頃まで可能で、週2回から3回、入浴出来るようにしている。希望に応じた入浴時間や順番、湯加減で、入浴剤の利用や季節の柚子湯で気分転換をしたり、歌や職員との会話を楽しみながらゆったりと入浴できるように支援をしている。風呂上がりのジュースや、入浴後に保湿クリームをつけマッサージすることを楽しみにしている人もあり、利用者全員が入浴を楽しみにしている。利用者の状態に合わせて、清拭、シャワー浴、足浴、部分浴など、一人ひとりに応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具などの清潔、整理整頓を行うようにしている。個人に合わせて入床する時間を調整したりしている。また日中傾眠気味の方には自室で少し休んで頂いたりしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どのスタッフも解り易く、取り出しやすいように内服薬の保管をし、一日分取り出した人が内服セットの2重チェックをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い、テーブル拭き、自室掃除等出来る事をして頂いている。おやつ時の飲み物やおやつ、食事の献立も要望を聞き取り入れている。おやつを作ったり花火やゲームをして楽しまれている。	季節の行事(お正月の事業所内でのお参りやくじ引き、節分の豆まき、ひな祭り、七夕)、中庭での花火大会、ふなきカフェ、夏祭り、敬老会(中庭での弁当など)、ハロウィンの作品づくり、ミニ運動会(大玉転がし、玉入れ、ゲーム)、クリスマス等)、誕生日会、訪問理美容、認知症カフェへのリモート参加、テレビやDVDの視聴、新聞や雑誌を読む、金銭出納簿の記録、電子ピアノを弾く、編物、縫物、お手玉、折り紙、ぬり絵、紙細工で壁面作り、歌を歌う、カラオケ、いきいきスマイルアップ体操、かるた、犬とふれあう、連想ゲーム、ナンプレ、文字遊び、書写、数字並べ、ダーツ、ボウリング、なぞなぞ、綿菓子作り、たこ焼き作り、しりとり、バランスゲーム、クイズ、ラジオ体操、歩行訓練、風船バレー、ボール遊び、シャボン玉づくり、中庭の花植、庭の草取り、野菜づくりや収穫(キュウリ、トマト、ピーマン)、雪だるまづくり、居室の掃除、カーテンの開閉、新聞を取る、花を生ける、花瓶の水を代える、枕カバーやシーツ交換、洗濯物干し、洗濯物をたたむ、洗濯物を居室に持ち帰り収納する、食事の準備や片付け等、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、利用者一人ひとりが張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望を聞き、個人外出で買い物や近隣へ出掛けていたがコロナ禍で難しくなった。中庭や敷地内散歩などは日常的に外出支援として出来ている。	敷地内での季節の花見(梅、桜、紫陽花、紅葉)、ドライブ(焼野海岸)、法人敷地内のパン工房、売店、自販機での買い物、周辺の散歩や日光浴、中庭での花植やキュウリ、ピーマンの収穫、エントランスでのお茶会、室外でアイスクリームを食べる、通院時の道中のドライブ等、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族・ご本人了解の下お金の管理が可能の方はご本人で出納帳をつけてもらい、買い物なども見守りでしていただいている。ご本人の負担にならないように一緒にチェックも行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	敬老の日にはお手紙をご家族に書いていただき、本人に読んでもらい喜ばれた。また贈り物が届いた時には本人に電話をかけるよう支援している。メールやズームも利用して支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間の壁に季節に合った絵、飾りなどをまた利用者の写真を飾り、楽しめるよう環境づくりをしている。室温、温度、採光の調整も確認しながら快適に過ごせていただけるように努めている。	広く明るいリビングに、食卓テーブルや椅子、ゆっくりくつろげるソファを配置し、レクリエーションや楽しみごとに使う物品を備えて、利用者が思い思いに過ごせるように工夫している。壁面には利用者が職員と一緒に作った季節の紙細工などを飾っている。ユニットの間にある中庭に花壇を作り、利用者は季節の花を観賞している。温度、湿度、換気に配慮し、居心地良く過ごせるように工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれにテーブル席を決めて慣れた席でゆっくりとしたいことをして過ごせるようにしていただき、ソファ席も設けTV鑑賞したり他人居者様や職員と談笑したりと共有スペースでも個々に快適に過ごせるように努めています。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具、家電を持ち込み安全に配慮しつつ、ゆったり落ち着ける空間となるよう配置している。また、ご本人が癒しを感じられるようにインテリアの変更や工夫に努めている。	ベット、箆笥、衣装箱、小物入れ、椅子、テレビ、冷蔵庫、三段ラック、電子ピアノ、楽譜、仏壇、時計、洗濯物干し、ハンガー、洋服、帽子、鏡、洗面道具、湯たんぽ、そろばん、家計簿、ノート、カード、雑誌、本、ぬいぐるみ、など使い慣れたものや好みのものを持ち込み、タペストリーやカレンダー、家族の写真、ポスター、自分で作った作品等を飾って本人が居心地良く過ごせるように工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室には顔写真を共有スペースに、またテーブルには名前を表示し解り易く行動できる様に支援している。棚等の配置も安全に生活できる様空間作りにも努力している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームふなき

作成日： 2022 年 11 月 1 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	14	コロナ禍において外部研修は参加がやや消極的である。中止・延期等もあり、参加出来ていない。	外部研修、内部研修共に充実を図る。職員のトレーニングは新人のみならずベテラン職員も常に新しい知識・技術を取り入れ、さらなるレベルUPを図る。	内部研修は年間の計画を立てる。また外部研修も可能な限り計画を立てる。未計画の研修は、研修案内確認次第、その都度検討し可能な限り、参加をしていく。またZOOM等を活用したオンライン研修も積極的に参加していく。	1年
2	35	すべての職員がすべての応急手当や初期手当の場面に対応できるとは言いきれない。	内部・外部研修の参加。インシデント・アクシデントレポートの作成と分析と対応をする。全体会議、ケア会議、委員会等も含む定期的訓練を充実する。	上記と重なるが、内部研修の年間計画を立て計画通りに実施していく。外部研修も計画を出来る限り立てて参加をして、結果的に1人ひとりの実践力が身に付けられるようにする。(オンラインも活用)	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。